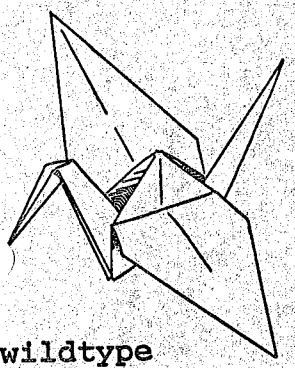
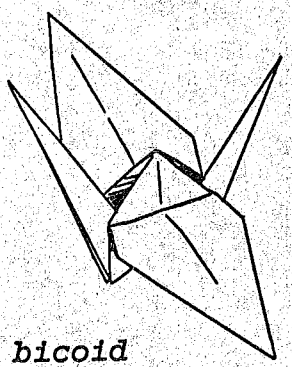
INFORMATION Circular

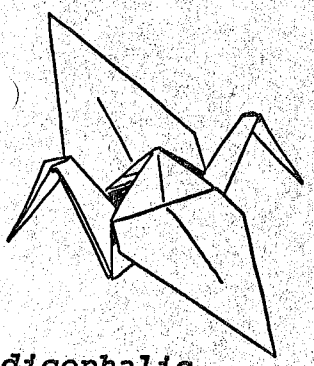
JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS



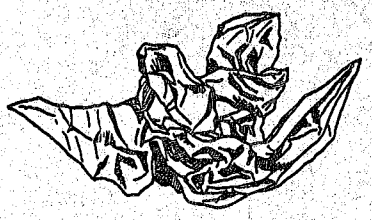
wildtype



bicoid



dicephalic



clumsy-handed

■会員の皆様へ……江口吾朗……1
■第25回大会のお知らせ……大会委員会…2
■英文要旨の発行停止は学会の活性を低下させるか？……米田満樹……4
■事務局より……事務局……5
■日本学術会議だより……6
■シンポジウムのお知らせ……8
■会員異動……15
■賛助会員入会・広告掲載のお願い……19

NO. 70

DECEMBER 1991

日本発生生物学会

〒113 東京都文京区本郷7－3－1

東京大学 理学部 動物学教室

会　　長：〒 444　愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38
基礎生物学研究所　発生生物学系　形態形成部門
江口吾朗（電話 0564-55-7570）
ＤＧＤ編集主幹：〒 060　札幌市北区北10条西８丁目
北海道大学理学部動物学教室
片桐千明（電話 011-716-2111 内線 5298）
ＤＧＤ編集幹事：〒 724　東広島市鏡山１―３―１
広島大学遺伝情報
嶋田　拓（電話 0824-22-7111 内線 2824）
事　務　局：〒 113　東京都文京区本郷７―３―１
東京大学理学部動物学教室
（幹 事 長）　塩川光一郎（電話 03-3812-2111 内線 4431）
（庶務幹事）　田代　康介（電話 03-3812-2111 内線 4433）
（会計幹事）　浅野　美咲（電話 03-3812-2111 内線 4432）
学会センター：〒 113　東京都文京区弥生２―４―16　学会センタービル内
財団法人　日本学会事務センター
日本発生生物学会担当係（電　話 03-3817-5801）
（ＦＡＸ 03-3817-5800）

日本発生生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（**ＤＧＤ**，インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書面でお問い合わせ下さい。

会員の皆さんへ

会長　江口吾朗

会長に就任して早一か年が経過いたしました。この間，本学会をいかに発展させるかにつきまして，いろいろと模索して参りましたが，具体的には何ひとつ実現することも出来ませず，早くも私を推して下さった会員の皆さんのご期待を裏切ることとなっております。現在，本学会は，財政，機関誌としてのD．G．D．の在り方，等々早急に改善を求められている難題をかかえております。ことに財政は，前会長安増郁夫先生の絶大なご努力にも拘らず学会の将来が安じられる情況にあります。一方，D．G．D．は編集主幹片桐千明先生のご努力のお陰で，刊行が続けられてはいますが，国際学術雑誌としての質的向上を図るには，良い論文が数多く投稿されることを望む以外に今のところ妙案が生まれません。これらの問題を残された任期中に，どれほど解決できますか，全く自信がございません。今後，運営委員会と相図り，可能な限り学会をより良く発展させるための努力をする所存でありますが，会員の皆さんのご助力とご協力を切に望んでおります。

これは，私達発生研究者にとりましてはたいへん喜ばしいことでありますが，平成5年度から，文部省科学研究費補助金の細目のひとつとして，複合領域に発生生物学が設けられることとなりました。このことに関連しまして，動物学会，植物学会，さらには学術会議動物科学研究連絡委員会等々におきまして，ことに審査の在り方について検討がなされております。わが国の科学研究費の現行制度がよく機能するか否かは，審査制度に大きく依存しています。本学会としても可能な限り公平かつ信頼度の高い審査制度が実現するよう最大限の努力が必要かと存じます。発生生物学の細目が設けられるのを機に，会員の皆さんから，審査の在り方について，積極的にご意見が寄せられること切に望んでおります。

日本発生生物学会第25回大会のお知らせ

第25回日本発生生物学会大会は，1992年５月28日～30日に，横浜市開港記念会館で開催されることになりました。ここは大正６年に横浜開港50周年を記念して建造された近代的ルネッサンス様式の建物で，港横浜の歴史を感じさせる雰囲気を持っています。皆様のご参加を心よりお待ち致します。

1) 期日：1992年５月28日（木）～５月30日（土）

2) 会場：横浜市開港記念会館

ＪＲ根岸線・市営地下鉄線「関内」駅より徒歩約10分

ＪＲ「横浜」駅東口より車で15分

3) 参加申し込み

① 同封の参加申し込み書に必要事項を記入して，1992年３月12日（木）（当日消印有効）迄にお申し込み下さい。

② 申し込み先：〒236 横浜市金沢区瀬戸22―２

横浜市立大学文理学部生物学教室

日本発生生物学会第25回大会準備委員会

③ 大会参加費：5000円（学生・院生4000円）

大会参加費は郵便局の定額小為替で，指定受取人を

横浜市金沢区瀬戸22―２　横浜市立大学文理学部生物学教室

田澤栄五郎

として参加申し込み書と共に書留にてお送り下さい。

④ 懇親会を大会第２日目，５月29日に行ないます。参加をご希望の方は懇親会費5000円を大会参加費に加算してお送り下さい。会場の都合上，当日の受付が出来ない可能性がありますので，参加ご希望の方は，できるだけ大会参加申し込みと一緒にお申し込み下さい。よろしくお願いします。

⑤ 同封の受取書の所定欄に名前および必要事項を，また表に郵便番号，住所および氏名を記入し，必ず切手を貼って下さるようお願いします。

⑥ 問い合わせ先：準備委員会　浅島　誠　　045―787―2214　直通

4) 研究発表

① 申し込み期限：1992年３月12日（木）当日消印有効

② 本大会の研究発表は口頭発表とポスター展示の併用で行ないます。発表者はどちらかを選択して申し込んで下さい。ご希望の発表形式を変えていただく場合もありますのであらかじめ御了承下さい。その決定は準備委員会にお任せ下さい。

尚，今回の大会ではポスター展示の方にも短時間（１～２分），スライドを１枚使って発

表していただきたいと思います。

③ 研究発表の申し込み者は(1)同封の参加申し込み書に必要事項を記入し，(2)発表要旨と共に書留でお送り下さい。なお，連絡書にも筆頭発表者（演者）名を裏面に，その連絡先を表の宛名欄に記入の上，必ず切手を貼ってお出し下さい。研究発表は1991年度までの会費納入者に限ります。連名で発表される場合には筆頭発表者（演者）が申し込んで下さい。それ以外の方は参加申し込み書の所定の欄に筆頭発表者（演者）名を記入して下さい。

④ 発表要旨の原稿は，そのまま印刷しますので，黒インクで明瞭に書いて下さい。図表も印刷できます。英文タイトル，所属，氏名も所定の欄にご記入下さい。

⑤ 口頭発表：発表時間15分（口頭発表12分，討論３分）。会場には35㎜版（外枠50×50㎜）スライドプロジェクター一台を用意します。スライド枚数は一演題につき10枚以内とします。16㎜フィルムの映写機や他の投影機の使用を希望される方は事前に大会準備委員会（電話：045—787—2214）にご相談下さい。

ポスター展示：パネルサイズは幅180㎝×120㎝です。形式は特に定めません。パネルへのはりつけ用具（両面接着テープ等）は準備委員会で用意致します。

ポスター展示の要旨口頭発表を，２日目の午後にＡ会場で行ないます。演題１つにつき，時間１分30秒（演者交代時間も含む），スライド１枚を使って発表して下さい。順番はポスター展示の番号の若い順とします。

5) 大会準備委員会では宿泊のお世話はいたしません。現在交通，宿泊のお世話をする会社を選定中です。４月上旬ごろ案内をお送り致しますので，希望者は各自申し込んで下さい。

発表要旨記入例

フォリスタチンによるアクチビンＡおよび植物極化因子の
中胚葉分化誘導の阻害について

横浜太郎，港　花子（横浜市立大・生物）

Follistatin inhibits the mesoderm-inducing activity of activin A and the vegetalizing from chicken embryos.

T, Yokohamo and H. Minoto
Dept. of Biol., Yokohama City Univ., Yokohama 236

一個の卵細胞から完全な生物の形作りを行う過程では複雑な現象が起こっている。組織，器官の形成には多段階的な誘導現象が起こっていると考えられる。両生類の形作りの中で最初に起こる誘導現象に桑実胚期から胞胚期にかけて起こる中胚葉誘導がある。

英文要旨の発行停止は学会の活性を低下させるか？

米　田　満　樹

サーキュラー69号にでた加藤秀生さんによる記事は，わが学会の〔活性が低下していく？〕という，あっと驚くタイトルで，論旨は英文の学会アブストラクト（以下英文要旨と略）の発行をやめたことが，〔研究の国際化から取り残され，ひいては本学会が衰退していく〕かもしれないという危惧を表明されているものと私は理解しました。DGDから英文要旨を省くことを示唆したのは元編集主幹だったときの私ですが，まさかこの廃止が学会の活性低下や，国際化の低下を招く副作用があろうとは，想像もせぬことでしたし，加藤さんの記事に接した今でもまだ，その「危惧」についての実感はありません。以下に私の意見を書きます。なおこの小文で〔 〕は加藤さんの記事からの引用です。

北米やヨーロッパに，本学会のような発生生物学のローカルな年会があったとして，それらの大会の英文要旨が，当該学会の圏外に（つまり日本の研究者のところにまで）定期的に伝えられている例を私は知りませんから，発生生物学という分野で日本発生生物学会だけがこの種のサービスをしていたことになります。この分野で後発の諸国からの英文要旨は，サービスというよりは，先進国に無視されないための定期的な宣伝という性格だと思います。でも日本での状況は変わり（平均した質ではなお後進国であっても），昔のように「学会発表はしたが，英語が苦手で論文にはしていない」のが当然至極ではなくなり，学会で発表をするころには，D. B. やら，Development，または，DGDへの原稿を書こうとしているという位に，特に若手は，苦労もなく（苦労もせずに，いい加減な原稿のまま平気で投稿する傾向がはびこるほどに）大胆にフルペーパーを書ける時代になりました。つまり個々の研究者のレベルでいえば，国際誌におのれの論文が掲載されることで，研究の交流が果たせる時代です。英文要旨のおかげでからくも〔国際化から取り残され〕ないですむ時代とは思いません。

加藤さんは，題名と著者名だけを英語にした要旨集が，日本語の読めない人に〔いらだたしさ〕を覚えさせるのではないか，と言われます。英文要旨ならずっとましでしょうか？　私にはそうは思えません。J. Cell Biol. にでる学会アブストラクトが，デイテイルも，学会での評価も教えてくれず，どの程度に確かな情報か，その学会に「出席しなかった」ものにはわからない，その「いらだたしさ」をやっぱり感じるからです。「英文要旨は論文と違って，レビューを通っていないから情報としてダメだ」という原則論をここでむしかえすつもりはありません。学会発表も，聴衆の喝采や無言の無視などのフイルターにかかり，聴衆の暗黙の合意という一種のレビューをうけます。英文要旨の問題点はそれが「聴衆によるレビュー」以前の予定原稿であることです。印刷物としては残らず，出席者だけに伝わる部分の方が，より新鮮な情報と私は思います。（そうでなければ誰が，旅費と時間をかけて学会などに出席するでしょうか？）。つまり，ローカルな学会は情報の伝達に関し（学会外に対して）もともと閉鎖的なのであり，日本の学会だけの責任ではありません。加藤さんのいわれる〔閉鎖的ニッポン〕と言う傲慢がこの場合にあては

まるとは思いません。

加藤さんはまた，〔英文アブストラクトの廃止によって研究の priority を発表する場を（大会が）提供できなくなった〕とされています。この点で私は違う見解を持ちます。D. B. の投稿規定には，「アブストラクトは文献リストに含めないこと」とも読めるような記述があり，事実，現在のD. B. でアブストラクトの引用をみつけることは稀です。DGDは明示的に「アブストラクトは文献リストに含めない（テキスト中で引用するのはよい）」としています。とにかく，英文要旨がプライオリテイを客観的に保証するものではなくなっている（引用されなくても仕方ない）と私は思っております。研究のプライオリテイを主張する根拠に，著者が自身の英文要旨を持ち出すのは自由ですが，他者がそれを評価するかどうかはわかりません。DGDの編集をした私の体験では，投稿論文の中で英文要旨が引用されるのは，大抵の場合著者自身による引用で，他者のプライオリテイを評価するための引用は稀でした。一方，英文要旨は研究のアイデイアを読者に提供するので，手の早い読者なら（合法的に）論文発表で先を越すこともありえます。英文要旨の発行がつづけば，国外にライバルをもつ研究者達は，論文の出版が確実になるまで学会での発表を控えるでしょう。出席した聴衆にだけ伝えられるホットな情報という魅力が減ったら，それこそ学会大会の活性が低下することにならないかと，その方が私の危惧です。

学会が英文要旨を廃止した事情について，会長がサーキュラー66号に書いた説明は，主に財政的な困難をあげています。加藤さんが期待されるところの，〔英文要旨の復活に向けて学会執行部が――果敢な努力を展開する〕というのは，即ち金を集める努力のことです。学会執行部がそこまでして英文要旨を復活するメリットが（学会にとって）あろうとは思いません。

加藤さんが合わせて4回言及されている「国際的／国際化」については，学会としていずれは検討を迫られるもっと本質的なことが別にあると私は思います。それは，日本語のできない会員が国内や国外で増加したときに，ローカルな日本語圏の学会として，どんな対応ができるかです（英語版のサーキュラー？・講演討論は英語にする？）。問題の奥深さ（と学会財政の貧窮）を考えたら，言語障壁をもつ故にローカルであるこの国で，学会運営の「国際化」の途は，（言葉の甘い響きとは裏腹に）そう簡単ではないと思っております。

事務局より

●前々号のサーキュラー発行時より現在までに，以下の会員の方からDGD基金へ御寄付を頂きました。厚くお礼申し上げるとともに，お名前をここに記して感謝致します。しかしまだ予算として計上した額にはるかに達しないのが現状です。どうか引き続きDGD基金に御寄付頂きますよう，よろしくお願い致します。（巻末の振替用紙をご活用下さい）。

記

DGD基金御寄付者氏名（アイウエオ順，敬称略，6月30日現在）

京都大学理学部分子発生学，団まりな，原　幸喜，矢崎育子

日本学術会議だより　No.22

第15期最初の総会開催される

平成３年８月　日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第15期が７月22日から発足し，７月22日～24日の３日間，第15期最初の総会が開催されましたので，その総会等についてお知らせします。

日本学術会議第112回総会報告

７月22日の第15期の発足に伴い，内閣総理大臣による日本学術会議会員の辞令交付が行われた。第15期の会員は，選出制度が学術研究団体を基礎とする推薦方式になって，３回目の会員である。この第15期会員による最初の総会である，第112回総会が７月22日から24日までの３日間，本会議講堂で開催された。

第１日目（22日）は，午前は新会員への辞令交付式があり，午後総会が開会され，直ちに，会長及び両副会長の選挙が行われた。会員による互選の結果，会長には近藤次郎第５部会員が13期，14期に引き続き三選された。人文科学部門の副会長には，川田侃第２部会員，自然科学部門の副会長には，渡邊格第４部会員が選出された（渡邊副会長は再選）。選挙終了後，近藤会長から「新人の方が半数以上おられ，大きな抱負をもっておられると思う。挫折感を持つことのないようできるだけの努力をしたい。皆様にも御協力をお願いしたい。」との就任のあいさつがあり，又，川田，渡邊両副会長からもそれぞれ就任のあいさつがあった。

会長，副会長選出後は，直ちに各部会が開催され，各部の部長，副部長，幹事の選出が行われた。（第15期の役員については，別掲を参照）

第２日目は10時に総会が開催され，近藤会長が14期の会長という資格で第14期の総括的な活動報告を行った。その報告の折々には，国際交流とか，将来計画委員会，学術会議の予算等，会長の感慨，または感想をも交えてその所感を述べた。続いて，会員推薦管理会報告として，久保亮五委員長の代理として事務総長が，第15期会員の推薦を決定するまでの経過報告を行った。

引き続き，会長から３日目の総会で提案・審議する予定の「第15期活動計画委員会の設置について（申合せ案）」に関する各部での事前討議について，並びに各常置委員会の各部での委員の選出について，それぞれ各部へ依頼した。

総会終了後，各部会が開催され，前述の申合せ案の討議及び各常置委員会委員の選出等が行われた。

第３日目（24日）。10時に総会が開会され，会長から「第15期活動計画委員会の設置について」の提案が行われた。これは，第15期の活動の基本計画の立案を目的とする臨時の委員会を次の定例総会までの間，設置するということを内容としている。そしてこの提案は原案どおり可決された。

総会終了後，直ちに各部会が開会され，設置が決定された第15期活動計画委員会委員の選出等が行われた。

なお，この第15期活動計画委員会は，総会期間中に第１回の会議を開き，全会員を対象にした第15期の学術会議の活動に関するアンケートの実施を決めるなど，早速その活動を開始した。

また，運営審議会附置委員会，常置委員会，国際対応委員会等も活動を開始した。

第15期日本学術会議の辞令交付式等について

第112回総会に先立ち，第15期日本学術会議会員の辞令交付式が７月22日（月）11時から、総理大臣官邸ホールで行われた。辞令交付式は，海部内閣総理大臣，坂本内閣官房長官，大島，石原両官房副長官，稲橋総理府次長等の出席を得て執り行われた。

第１部から第７部までの会員１人ずつの名前が読み上げられた後全会員の最年長である渡邊格第４部会員が代表して海部総理から辞令を手渡された。この後，海部総理大臣から「会員の皆様には，創造性豊かな科学技術の発展，総合的観点に立った学術研究に係る諸活動に御尽力いただきたい。」とのあいさつがあり，これに応えて第15期会員を代表して渡邊格会員が「微力ながら全力を尽くし，重要な責務を全うし，国民の期待に応えたい。」とあいさつがあり，式は終了した。式には192名の会員が出席した。

また，総会２日目の夕方には，学術会議ホールで，坂本官房長官主催の第15期会員就任パーティーが開催された。パーティーは坂本官房長官のあいさつで開会し，日本学士院院長代理の藤田良雄幹事の祝辞があり，これに対する近藤会長の答礼のあいさつ，沢田敏男日本学術振興会会長の発声による乾杯の後，懇談に入った。ホールには溢れんばかりの人々で歓談が続き盛会であった。

第15期日本学術会議役員

会　長　　近藤　次郎（第５部・経営工学）
副会長　　川田　侃（第２部・政治学）
副会長　　渡邊　格（第４部・生物科学）

＜各部役員＞

第１部	部　長	肥田野　直	（心理学）
	副部長	弓削　達	（歴史学）
	幹　事	一番ケ瀬康子	（社会学）
	〃	山本　信	（哲学）
第２部	部　長	西原　道雄	（民事法学）
	副部長	細谷　千博	（政治学）
	幹　事	正田　彬	（社会法学）
	〃	山下　健次	（公法学）
第３部	部　長	大石　泰彦	（経済政策）
	副部長	島袋　嘉昌	（経営学）
	幹　事	岡本　康雄	（経営学）
	〃	藤井　隆	（経済政策）
第４部	部　長	中嶋　貞雄	（物理科学）
	副部長	田中　元治	（化学）
	幹　事	竹内　郁夫	（生物科学）
	〃	樋口　敬二	（地球物理学）
第５部	部　長	岡村　総吾	（電子工学）
	副部長	市川　惇信	（計測・制御工学）
	幹　事	内田　盛也	（応用化学）
	〃	増子　曻	（金属工学）
第６部	部　長	中川昭一郎	（農業総合科学）
	副部長	水間　豊	（畜産学）
	幹　事	志村　博康	（農業工学）
	〃	平田　熙	（農芸化学）
第７部	部　長	岡田　晃	（社会医学）
	副部長	伊藤　正男	（生理科学）
	幹　事	渥美　和彦	（内科系科学）
	〃	金岡　祐一	（薬科学）

（注）カッコ内は，所属部・専門

平成４年(1992年)度共同主催国際会議

本会議は，昭和28年以降，学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが，平成４年（1992年）度には，次の６国際会議を開催することが，６月７日の閣議で了解された。(カッコ内は，各国際会議の開催期間と開催地)

・第９回国際光合成会議
（平成４年８月30日～９月５日，名古屋市）
共催団体：日本植物生理学会

・国際地質科学連合評議会及び第29回万国地質学会議
（平成４年８月24日～９月３日，京都市）
共催団体：(社)東京地学協会外５学会

・第５回世界臨床薬理学会議
（平成４年７月26日～31日，横浜市）
共催団体：日本臨床薬理学会

・第11回国際光生物学会議
（平成４年９月７日～12日，京都市）
共催団体：日本光生物学協会

・第14回国際平和研究学会総会
（平成４年７月27日～31日，京都市）
共催団体：日本平和学会

・第８回国際バイオレオロジー会議
（平成４年８月３日～８日，横浜市）
共催団体：日本バイオレオロジー学会

第15期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第15期日本学術会議会員の概要を以下に紹介する。（カッコ内は前期）

1　性別	男子207人(207人)	女子３人(３人)	
2　年齢別	50～54歳	３人	55～59歳　29人
	60～64歳	105人	65～69歳　58人
	70～74歳	15人	
	最年長	74歳（76歳）	
	最年少	54歳（51歳）	
	平均年齢	63.5歳（63.1歳）	
3　勤務機関及び職名別			
(1) 大学関係	国立大学	71人(78人)	
	公立大学	２人(４人)	
	私立大学	93人(88人)	
	その他	３人(２人)	
	計	169人(172人)	
(2) 国公私立試験研究機関・病院等		11人(９人)	
(3) その他	法人・団体関係	９人(10人)	
	民間会社	９人(６人)	
	無職	10人(13人)	
	その他	２人(０人)	
	計	30人(29人)	
4　前・元・新別	前会員	88人(109人)	
	元会員	３人(４人)	
	新会員	119人(97人)	
5　地方別（居住地）	北海道	４人(３人)	
	東北	８人(６人)	
	関東	133人(130人)	
	中部	20人(17人)	
	近畿	34人(42人)	
	中国・四国	５人(４人)	
	九州・沖縄	６人(８人)	

（注）詳細については，日本学術会議月報７月号を参照

御意見・お問い合わせ等がありましたら，下記までお寄せください。
〒106 東京都港区六本木７-22-34
日本学術会議広報委員会　電話03(3403)6291

第4回胎仔培養を用いた発生毒性試験の開発に関するシンポジウム

日　時：平成3年11月30日（土）PM1：30～4：30

場　所：東京都立衛生学研究所

会　費：￥3,000

演　題：(1) 口唇口蓋裂研究における胎仔培養の役割

夏目　長門（愛知学院大・歯・第二口腔外科）

(2) マウス初期胚の培養と胚性幹細胞の分離

豊田　裕（東大医科研・獣医学研究室）

(3) 技術講座＜4＞

ラット，マウス胎仔培養を用いた発生毒性試験における薬物の投与方法と投与用量の設定方法について

横山　篤，秋田　正治，黒田　行昭*（鎌倉女子大・胎生栄養，＊麻布大・生物科学研）

事務局：〒169　東京都新宿区百人町3—24—1
東京都立衛生学研究所
小縣　昭夫
TEL 03—3363—3231（内線 405）

Forth International Xenopus Conference 開催のお知らせ

UNIVERSITY OF CALIFORNIA, IRVINE

BERKELEY • DAVIS • IRVINE • LOS ANGELES • RIVERSIDE • SAN DIEGO • SAN FRANCISCO SANTA BARBARA • SANTA CRUZ

EXECUTIVE VICE CHANCELLOR
IRVINE, CALIFORNIA 92717

October 31, 1991

Dear

This is to inform you that the Fourth International Xenopus Conference will be held at Asilomar in Pacific Grove, California on June 4-7, 1992.

The conference is limited to 250 participants. The housing accommodations will range from $46.00 to $61.00 per night. For further information, please read the enclosures.

In the past years, we have been able to provide financial assistance. We hope to do the same next year for as many as possible.

We will get back to you later in the year to give you more information. If you have any questions, please contact Carla Soll, who is coordinating this conference, at (714) 856-6297 or by fax (714) 725-2513.

L. Dennis Smith
Executive Vice Chancellor
University of California, Irvine

Jerry L. Hedrick
Professor
University of California, Davis

The Seventh International Conference
of
The International Society for Differentiation

CELLULAR PROGRAMMES FOR GROWTH, DIFFERENTIATION, AND NEOPLASIA

19-23 July 1992

First Circular **Helsinki, Finland** *First Circular*

The International Society for Differentiation

The objective of the ISD is to promote research into all aspects of animal and plant differentiation, with particular emphasis on the relationships between developmental biology and oncology. The Society's journal Differentiation and its international conferences serve to promote interdisciplinary and international communication among persons interested in these subjects.

Scientific Programme of the Conference

The Conference will focus on timely topics in cell growth, differentiation, and neoplasia. The final programme will be drawn up by the International Scientific Committee and will be composed of lectures, half-day symposia, mini-symposia, and poster sessions.

Tentative topics for the programme include:

- Growth factors, signal transduction, second messengers
- Cytoskeleton, cell adhesion
- Cell-matrix interactions, pericellular proteolysis
- Early embryos, cell lineages
- Embryonic stem cells, embryonal carcinoma cells
- Embryonic induction
- Cytodifferentiation, morphogenesis, pattern formation
- Neuronal development, angiogenesis, haematopoiesis
- Differentiation of normal and malignant epithelial cells
- The effect of the microenvironment on differentiation
- Differentiation therapy of cancer
- Cancer genes, tumour suppressor genes
- Gene therapy
- Cell migration and metastasis
- Stress response and apoptosis

Host Organising Committee

E. Lehtonen, Chairman, L. Saxen, Head of Scientific Committee

K. Alitalo, L.C. Andersson, M. Jalkanen, E. Saksela, H. Sariola, I. Thesleff, K. Tryggvason, A. Vaheri, I. Virtanen, J. Wartiovaara

International Scientific Committee

The International Scientific Committee will be announced in the Second Circular.

SECRETARIAT

The Conference Secretariat will be pleased to provide any information required. Please address all correspondence to:

ISD-92
Ms. Terttu Seppänen
AREA Travel Agency Ltd
University of Helsinki
P.O. Box 227
SF-00131 Helsinki, Finland

Tel: Int + (358-0-) 1855382
Fax: Int + (358-0-) 1855379

GENERAL INFORMATION

Location

The Conference will be held at the Porthania Building, University of Helsinki, in the centre of Helsinki.

Dates

19-23 July 1992

Language

The official language of the Conference will be English.

Abstracts

The abstracts of the papers and posters will be published in a volume of Conference Abstracts. The call for abstracts will appear in the second circular, to be published in the Autumn of 1991.

Climate

The weather in July is usually pleasantly warm and bright, with 20 hours of daylight in Helsinki.

Special Events and Tours

A diverse programme of social events will be offered to the participants. Many interesting cultural events will occur in Finland at the time of the Conference. Special activities will be available for booking by participants. These will include tours of the countryside with its natural forests and unspoiled lakes and visits to Lapland in the north and to Leningrad in the USSR.

To receive the Second Announcement and future information, please complete and return the following form:

The Seventh International Conference of the International Society for Differentiation:
"CELLULAR PROGRAMMES FOR GROWTH, DIFFERENTIATION, AND NEOPLASIA"
19-23 July 1992 Helsinki, Finland

Name ..... Affiliation .....

Address .....

..... Country .....

Telephone ..... Telefax .....

Please return to: ISD-92, Ms. Terttu Seppänen, AREA Travel Agency Ltd, P.O.Box 227, SF-00131 Helsinki, Finland,

第6回「大学と科学」公開シンポジウム日程・会場等一覧

セッション名	研究発表 グループ代表者	開催日時	開催場所
21世紀の材料科学 —複合機能・高性能材料の新世界—	堂山　昌男 （西東京科学大学 理工学部教授）	平成3年 12月18日（水） ～ 12月19日（木）	経団連ホール 千代田区 大手町 1-9-4 ☎03-3279-1411
卵から親へ —生命体の発生—	岡田　節人 （京都大学名誉教授）	平成4年 1月17日（金） ～ 1月18日（土）	ＭＩＤシアター 大阪市中央区 城見 2-1-61 ☎ 06-941-0941
モンゴロイド 地球を動く	赤澤　威 （東京大学総合研究 資料館助教授）	平成4年 1月24日（金） ～ 1月25日（土）	有楽町朝日ホール 千代田区 有楽町 2-5-1 ☎03-3284-0131
人工知能とニューロコンピュータ —人智に近づく情報処理—	甘利　俊一 （東京大学工学部教授）	平成4年 1月27日（月） ～ 1月28日（火）	経団連ホール 千代田区 大手町 1-9-4 ☎03-3284-1411
ヒトの防御機構 —アレルギーからエイズまで—	高久　史麿 （国立病院医療 センター院長）	平成4年 2月4日（火） ～ 2月5日（水）	有楽町朝日ホール 千代田区 有楽町 2-5-1 ☎03-3284-0131

『卵から親へ―生命体の発生―』プログラム

平成４年１月17日（金）～18日（土）

ＭＩＤシアター

大阪市中央区城見２―１―61

電 話 06―941―０９４１

平成４年１月17日（金）

A．挨　拶　（９：30～９：40）

第６回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

文　部　省

B．総合講演　（９：40～10：25）

司会　岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所長　　竹内　郁夫

発生―生物の語る生と死のドラマ

京都大学名誉教授　　岡田　節人

C．卵―からだの設計図をもった細胞の謎を探る　（10：25～14：55）

司会　東京大学教授　　大石　道夫

1. 生殖細胞は体細胞とどのように違うか

筑波大学教授　　岡田　益吉

2. 動物の未受精卵はどうして分裂しないのか

久留米大学教授　　佐方　功幸

3. 卵に発生の能力を付与するしくみ

岡崎国立共同研究機構教授　　長濱　嘉孝

4. 動物の背腹は卵の時代に決まる

九州大学教授　　山名　清隆

D. “かたち”の変化の謎を探る　(15：15～17：30)

司会　京都大学教授　志村　令郎

1. 遺伝子操作が明らかにする哺乳類の胚発生の制御

名古屋大学教授　近藤　壽人

2. 神経の回路はどのようにして作り出されるか

名古屋大学教授　藤澤　肇

3. かたちの複製—トカゲのしっぽ切りの話—

岡崎国立共同研究機構教授　江口　吾朗

平成4年1月18日（土）

E. 発生をコントロールする物質を探る　(9：30～11：45)

司会　大阪大学細胞工学センター長　松原　謙一

1. 動物の形づくりの最初の分子シグナル

横浜市立大学教授　浅島　誠

2. 細胞はどのようにして互いを見分けるか

京都大学教授　竹市　雅俊

3. カイコの変態をコントロールする脳ホルモン

名古屋大学教授　石崎　宏矩

F. 生物のかたちと遺伝子　(13：15～14：45)

司会　筑波大学教授　岡田　益吉

1. 手足の形を決める遺伝子群

東北大学助教授　黒岩　厚

2. 花のかたちを支配するしくみに迫る

岡崎国立共同研究機構助教授　岡田　清孝

G. 特別講演　(15：00～15：45)

司会　岡崎国立共同研究機構教授　江口　吾朗

生物がときほぐす時間

早稲田大学教授　中村　桂子

会　員　異　動

＜新入会員＞

（氏　名）	（所　属）	（住　所）	（①テーマ，②材料）
田中　修	島根医大・解剖学教室	〒693 出雲市塩冶町89-1	①発生異常の成因の解明 ②マウス，ラット，ウサギ，ヒト
三浦　直行	阪大・細胞工学センタ	〒565 吹田市山田丘1-3	①哺乳類動物における発生調節遺伝子の解析 ②マウス，ラット
平林　保治	帝人㈱生物工学研究所	〒191 日野市旭ケ丘4-3-2	①トランスジェニックマウス ②Mus musculus
山崎　剣	早稲田大・教育・生物学	〒169-50新宿区西早稲田1-6-1	①バフンウニ Na^+, K^+-ATPase cDNA のシークエンス ②バフンウニ
山崎由起子	三菱化成生命科学研究所哺乳発生生物	〒194 町田市南大谷11	①gene targeting, gene trap ②マウス
木下　圭	日本医大・生物学教室	〒211 川崎市中原区小杉町2-297-2	①両生類胚の誘導現象 ②アフリカツメガエル
西川　伸一	熊本大・医・免疫医学研究施設	〒860 熊本市本荘2-2-1	①血液細胞の発生と分化機構 ②マウス
八田　稔久	島根医大・解剖学第一	〒693 出雲市塩冶町89-1	①中枢神経系の発生 ②マウス，ヒト胎児
日下部眞一	広島大・総合科学部	〒730 広島市中区東千田町1-1-89	①誘導と形態形成 ②キイロショウジョウバエ
許　南浩	東大・医科学研・癌細胞学	〒108 港区白金台4-6-1	①哺乳動物における発生分化 ②マウス，ラット，ヒト
中平　健祐	阪大・蛋白研・機能制御	〒565 吹田市山田丘3-2	①神経細胞の発生分化 ②マウス

宮村　毅	阪大・蛋白研・蛋白質機能制御	〒565 吹田市山田丘3-2	①神経系の初期発生 ②マウス
㈲古谷　茂久	早稲田大・教育・生物学	〒169-50新宿区西早稲田1-6-1	①ウニ胚発生初期における蛋白質の化学修飾 ②ウニ
㈲下野　明彦	名古屋大・理・分子生物	〒464-01名古屋市千種区不老町	①マウス胚発生におけるN-myc 遺伝子の機能解析 ②マウス
小林　哲	国立衛生試験所	〒158 世田谷区上用賀1-18-1	①卵の活性化 ②アフリカツメガエル
㈲粂　昭苑	阪大・蛋白研・機能制御	〒565 吹田市山田丘3-2	①外傷の治癒，再生 ②アフリカツメガエル，他

＜住所，変更＞

（氏　名）	（所　属）	（住　所）
岡田　稔	大阪青山短大・生物教室	〒562 箕面市新稲2-11-1
岸田　嘉一	岡山大・教育・生物学	〒700 岡山市津島中3-1-1
岸本　健雄	東工大・生命理工・生体機構	〒227 横浜市緑区長津田町4259
出口　和雄	帝京短大	〒150 渋谷区本町6-31-1
毛利　秀雄	放送大学	〒260 千葉市若葉2-11
沢田　均	北大・薬・薬品生物化学	〒060 札幌市北区北12条西6丁目
浜崎　辰夫	東京医歯大・歯・歯科理工学	〒113 文京区湯島1-5-45
長尾　慶和	雪印乳業㈱受精卵移植研	〒059-13苫小牧市植苗119
㈲宇野　修正	㈱ミドリ十字中央研究所	〒573 枚方市招提大谷2-25-1
㈲高橋　雄	帝京大・薬・病態生化学	〒199-01神奈川県津久井郡相模湖町
㈲高倉　暁彦		〒290 市原市五井3387-5　ござめ寮B-201
岡田　節人		〒606 京都市左京区下鴨南芝町22
㈲西方　敬人	甲南大・理・生物	〒658 神戸市東灘区岡本8-9-1
㈲真嵜　武	京都府立医大・病院病理部	〒602 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
平岩　典子	理化研・ライフサイエンス筑波研究センター	〒305 つくば市高野台3-1-1

（氏　名）	（所　属）	（住　所）
㈻向　正則		〒724 東広島市西条大字下見1680-1 いちご荘 325
小淵　洋一	龍谷大・理工・電子情報	〒520-21大津市瀬田大江町横谷1-5
片岡　裕子		〒862 熊本市帯山3-24-5
㈻前田　美香	理化研・フォトダイナミクス研究センター	〒989-32仙台市青葉区南吉成138-5 ＩＣＲビル
㈻大隅-山下典子	東京医歯大・歯・顎研発生	〒113 文京区湯島1-5-45
㈻平野　敏夫	東大・医科研・細胞生物化学	〒108 港区白金台4-6-1
道端　齋	広島大・理・向島臨海実験所	〒722 広島県御調郡向島町千汐
岸田　嘉一		〒709-08岡山県赤磐郡山陽町山陽団地5-2-16
永渕　昭良	岡崎国立共同研究機構・生理学研究所	〒444 岡崎市明大寺町字西郷中38
舘　鄰	東大・農・応用動物科学	〒103 文京区弥生1-1-1
嶋田　拓	広島大・理・動物	〒724 東広島市鏡山1-3-1
赤坂　甲治		同　上
山田　一実		〃
山本　卓		〃
吉田　勝利		〃
木下　勉		〃
井筒　ゆみ		〃

＜退　会＞

森中　敏行，神尾　一彦，市川　純彦，山形　方人，唐沢健一郎

〔賛助会員〕

組織培養は**パイレックス・コーニング**の岩城硝子㈱　〒100　千代田区丸の内3-2-3
ＴＥＬ　03-3214-6221

生物学・生態学洋書のことなら**グリーン洋書**㈱　〒210　川崎市幸区塚越2-260
ＴＥＬ　044-533-0470

㈱**武田薬品工業中央研究所**　〒532　大阪市淀川区十三本町2-17-85
ＴＥＬ　06-300-6835

試薬・機器の御用命は**名古屋片山化学**㈱まで　〒460　名古屋市中区丸の内3-11-14
ＴＥＬ　052-971-6531

日製産業株式会社　〒453　名古屋市中村区名駅4-6-18
（名古屋ビル内）
ＴＥＬ　052-583-5846

バイオテクノロジーで未来をひらく㈱**バイオ科学研究所**
〒990　山形市城西町5-34-5
ＴＥＬ　0236-44-5030

発生学をはじめとする生物科学書の出版社・**培風館**　〒102　千代田区九段南4-3-12
ＴＥＬ　03-3262-5256

藤本理化　〒113　文京区向ヶ丘2-34-12
ＴＥＬ　03-3827-8151

三菱化成生命科学研究所　〒194　町田市南大谷11
ＴＥＬ　0427-24-6226

マウス・モノクローナル抗体（アロ抗体）は**明治乳業**㈱
〒104　中央区京橋2-3-6
ＴＥＬ　03-3271-4333

試薬及び理化学機器販売の**理科研**㈱　〒463　名古屋市守山区元郷2-107
ＴＥＬ　052-798-6151

科学の技術に奉仕する**理工学社**　〒113　文京区本駒込5-9-10
ＴＥＬ　03-3928-5211

次代を担うバイオテクノロジー**和研薬**㈱　〒606　京都市左京区北白川西伊織町25
ＴＥＬ　075-721-0491

（50音順）

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会

会 長 江 口 吾 朗

近年，ライフサイエンス，バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ，生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は，発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で，日本を主に，外国の発生学者を混じえて約900名を結集しております。発生学は，言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており，最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題，癌細胞の基礎的研究，老化の問題等も発生生物学者の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は，これらの分野での活発な研究者を会員としております。又，本学会の刊行致しております欧文誌 "Development, Growth and Differentiation" (DGD) もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては，このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒，本学会趣旨に御賛同の上，賛助会員として本会を御支援賜りますよう御願い申し上げます。

なお，賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され，本会の刊行する欧・和文刊行物（会員名簿を含む）が配布されます。会費は，一口三万円を申し受けております。御入会の際は，入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局

〒 113　東京都文京区本郷7－3－1

東京大学理学部動物学教室内

……切……り……取……り……線……

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年　　月　　日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

（＿＿＿＿＿＿ 口 ＿＿＿＿＿＿ 円）

住　所

会社名　　㊞

担当者名
電話番号

広告掲載のお願い

日本発生生物学会は理学，医学，薬学，農学をはじめ分子生物学，細胞生物学，遺伝学など，さまざまな生物学分野で発生生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり，国内外に約900人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は，日本発生生物学会の機関誌で年6回発行し，国内に約1,000部，国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下，本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等，是非ご協力頂きますようお願い致します。

	広告料		
DGD本誌	1頁	年6回	150,000円
	半頁	〃	78,000円
インフォメーション・	1頁	年3回	30,000円
サーキュラー	半頁	〃	15,000円

申し込み先：日本発生生物学会

〒113 東京都文京区本郷7—3—1

東京大学理学部動物学教室内

……切……り……取……り……線……

広告申し込み書

年　　月　　日

日本発生生物学会　御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

□ DGD本誌	1頁
□ 〃	半頁
□ サーキュラー	1頁
□ 〃	半頁

住　所

会社名　　㊞

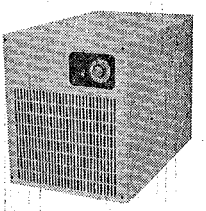
担当者名
電話番号

生物研究関連機器〈恒温装置・環境装置〉 AQUA

加熱冷却ユニット

クーラー・ヒーターはチタン製。淡水はもちろん海水や薬品液にも使用できる高性能の循環式小型加熱冷却装置です。

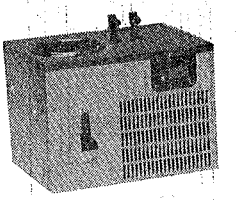
形式	クーラー	ヒーター	概略水量	価格
HC061A-3	65W	300W	120ℓ	¥213,000
HC101A-3	100W	300W	160ℓ	¥225,000
HC131A-5	130W	500W	260ℓ	¥239,000
HC201A-5	200W	500W	360ℓ	¥258,000
HC301A-5	300W	500W	670ℓ	¥321,000
HC401A-5	400W	500W	1000ℓ	¥360,000



低温恒温循環水槽

実験台上でも使用できるように極めてコンパクトにまとめた低温恒温循環水槽です。水温は低温から高温までを任意に設定することができます。外部循環機能をそなえておりますので恒温水槽のほか，カラムの冷却，保温など幅広い用途があります。

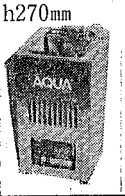
形式：CT 65-300-S
使用温度範囲：0～50℃（±0.1℃）
外形寸法：W420×D330×H340mm
槽内寸法：φ153×H187mm
冷凍機：65W ヒーター：300W
価格：¥250,000



超小型ウォーターバス式インキュベーター

極めてコンパクトにまとめた超小型の恒温槽です。50mℓ程度のビーカーや小型の試験管数本の恒温を得る用途に適しています。

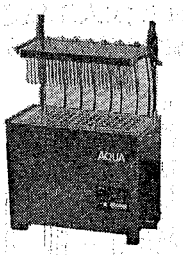
形式：CTH-100（加熱専用型）／CTC-100（加熱冷却型）
外形寸法：146×176×h225mm／146×176×h270mm
温度範囲：室温＋5°～60℃／＋5°～60℃
温度精度：±0.05°～±0.1℃
槽材質：ステンレス SUS304
槽内寸法：98×100×h59mm
本体価格：¥98,000／¥168,000



ゼットコンデンサー

空気または窒素ガスを試験管内に吹きつけ，溶媒の蒸発を促進し，濃縮時間を短縮する装置です。

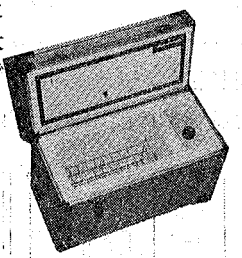
形式：JC 70-300
外形寸法：350×191×h540mm
槽内寸法：300×120×h70mm
温度範囲：室温～100℃ ±0.4deg
吹出ノズル本数：70本
ヒーター：300W
空気ポンプ：20W
電源：100V
価格：¥310,000



恒温コンテナー

蓄冷体の融解速度を微量にコントロールして恒温を保つ小型の恒温輸送用コンテナーです。凍結したら困るあらゆる物体の低温での恒温輸送に威力を発揮します。商用電源，大型バッテリーを使用しないので可動性に富みどこでも使えます。

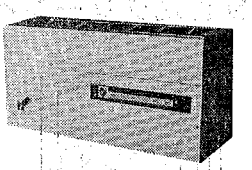
形式：CTC-422
外形寸法：407×193×H298mm
庫内寸法：246×122×H200mm
コントローラー：デジタル設定，デジタル表示
価格：¥88,900（蓄冷体－5℃付）



温度勾配装置（ウォーターバス）

温度調節水槽はそれぞれ独自の温度に設定できます。精度の高い恒温が得られます。温度の設定はデジタル式。振とう装置付きもあります。

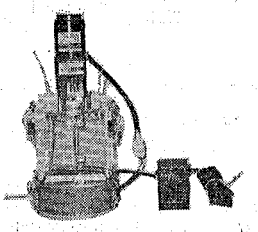
形式：TGW-3（三連）/TGW-5（五連）
使用温度範囲：0～50℃
温度調節精度：±0.05～±0.1℃
槽内寸法：150×260×150×3/×5
冷凍機：200W／300W
ヒーター：90W×3/×5
価格：¥788,000／¥970,000



本城式プランクトン濃縮装置

プランクトンを効率よく回収する装置です。プランクトン細胞の崩壊が少なく，低濃度で分布している種類を観察することができます。ろ過水はプランクトンの体液が混入しない純水なものが得られます。ろ紙の表面は目詰まりしにくく早い沪速が得られます。

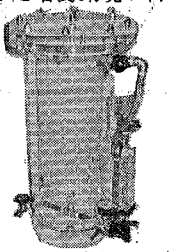
形式：PC15-S
回収率：80～95%
価格：¥98,000



加圧式インキュベーター

空気または不活性ガスで加圧した環境下で各種生物を培養する装置です。新鮮な空気を常に供給しながら一定圧を保つことができますので安定した培養環境が得られます。

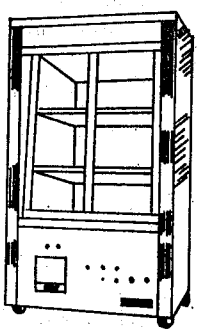
形式：PI 203
最大使用圧力：2.5kg/cm²
内寸法：φ190×h440mm
外形寸法：φ280×h530mm
本体材質：透明アクリル
価格：¥198,000（加圧ポンプは別）
給水装置　減圧弁・安全弁付



アクア株式会社　〒141 東京都品川区西五反田2-10-8　TEL.03-3495-5668／FAX.03-3495-5688

NK式生物研究用機器

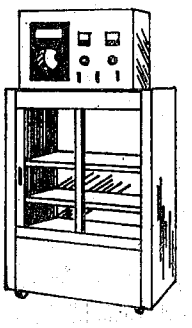
ＮＫ式電気低温恒温器（送風循環型）
高精度普及型



仕様＼型式	ＬＰ-100 －Ｓ型	ＬＰ-150 －Ｓ型	ＬＰ-200 －Ｓ型
内法 間口×奥行 ×高さ㎜	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	＋5℃ ～45℃	＋5℃ ～45℃	＋5℃ ～45℃
価格	26万円	30.5万円	32万円

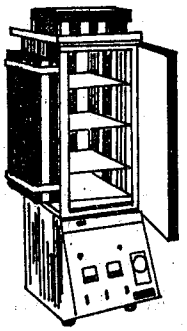
※その他いろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器（送風循環型）
四季の温度がプログラムで自在に再現できます！



仕様＼型式	ＬＰ-150 －３Ｐ	ＬＰ-200 －３Ｐ	ＬＰ-300 －３Ｐ
内法 間口×奥行 ×高さ㎜	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	＋5℃ ～45℃	＋5℃ ～45℃	＋5℃ ～45℃
価格	49.8万円	53.5万円	60万円

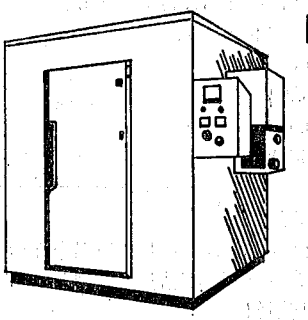
ＮＫ式人工気象器
植物の育成、小動物（昆虫）飼育の本格派！



仕様＼型式	ＬＨ-100 －ＲＤ型	ＬＰＨ-100 －ＲＤ型	ＬＨ-100 -ＲＤＰ型
内法 間口×奥行 ×高さ㎜	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	＋5℃ ～45℃	＋10℃ ～45℃	＋5℃ ～45℃
価格	温度のみ 47万円	温・湿度付 73万円	プログラム付 66万円

※その他いろいろなタイプがあります。

ＮＫ式プレハブ電気低温恒温槽
組立、移設、増設が思いのまま！

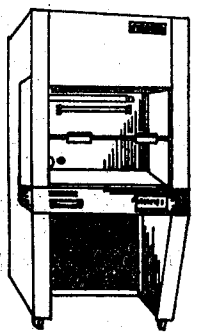


精密型

- ＬＨ型＋5℃～45℃ 価格１坪 1,190,000円より各種
- ＬＰ型＋18℃～45℃ 価格１坪 1,290,000円より各種

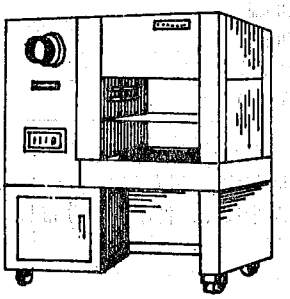
※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

ＮＫ式クリーンベンチ（垂直層流型）



NKB－VS－850
￥780,000
NKB－VS－1300
￥880,000

NK式クリーンベンチ（垂直層流両面型）
無菌作業の能率アップに！



NKB－VW－850
￥1,200,000
NKB－VW－1300
￥1,500,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本　社　〒550 大阪市西区江戸堀１丁目19番24号　電話　大阪　06（443）0712㈹
東京営業所　〒183 東京都府中市緑町７０５３－４　電話　府中　0423(65)3245㈹
工　場　〒583 羽曳野市駒ヶ谷５番地47号　電話　羽曳野0729(58)1919㈹

研究用試薬

ザイナキシス社

生細胞の染色に

細胞蛍光標識キット

Cell Linker Technologyに基づく細胞染色法で，細胞膜に高親和性を持つ新しいタイプの蛍光色素PKH2またはPKH26蛍光色素と希釈液とを組み合わせた，細胞蛍光標識キットです．

細胞機能に影響しません

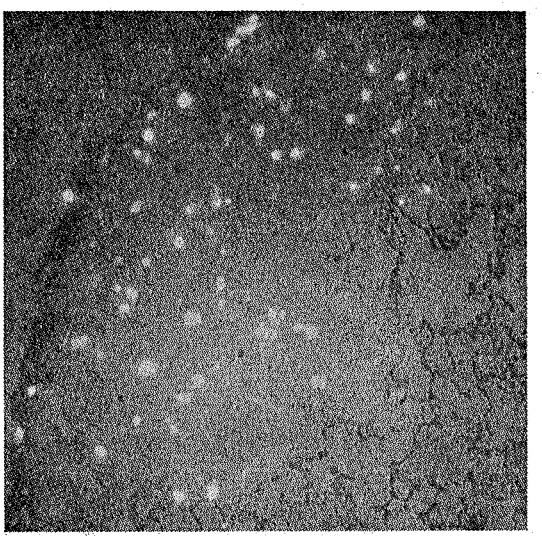
細胞と数分間混合するだけで，生細胞をその機能を損うことなく染色可能で，細胞の移動や増殖のモニタリングに大きな威力を発揮します．

簡便です

従来^{51}Cr等を用いて行われていたLAK細胞のモニタリングやNK活性の測定が簡便に，しかも安全に行うことができます．

安定です

ウサギ赤血球を標識した場合，PKH26ではin vivoでその溶出の半減期が100日以上を示し，長期のモニタリングが可能です．



Tumor Localization of PKH26 Labeled TILs.
マウス肺癌組織に浸潤している，PKH26で染色したIL-2処理リンパ球が観察されます．

Photo Courtesy of
Drs. Per Basse & Ronald H. Goldfarb
Pittsburgh Cancer Institute, Pittsburgh, PA

発売元 大日本製薬株式会社
ラボラトリー プロダクツ部

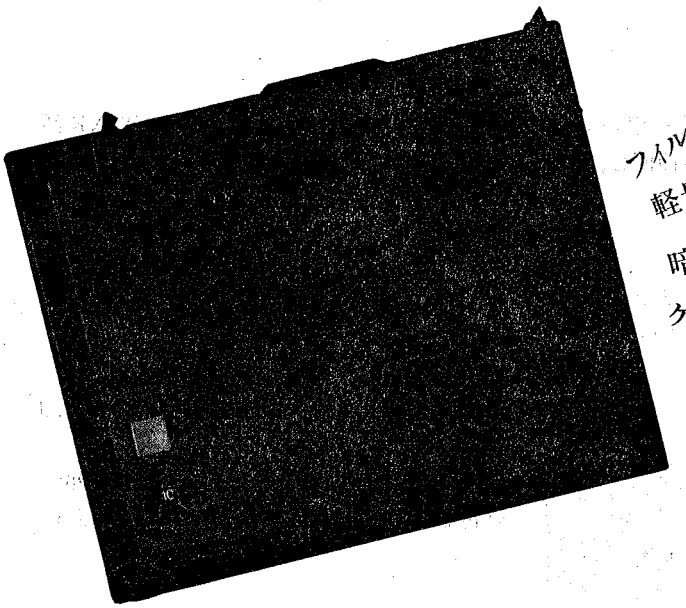
〒564 大阪府吹田市江の木町33-94
TEL 大阪 (06) 386-2164(代表)
東京 (03)3828-6544(代表)

TOMY

オートカメラユニット

ICシリーズ

INSTANT CAMERA UNIT



フィルムの送り出しが完全自動。

軽量、コンパクト、便利の3拍子。

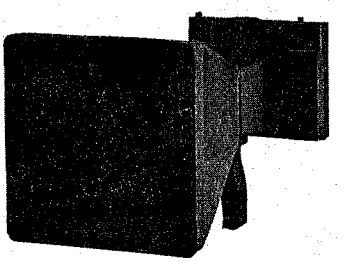
暗室、ピント合わせの必要なし。

ゲルサイズに合わせて2タイプ。

■本体仕様

製名	IC-100A	IC-200A
撮影倍率	1:1(等倍)	×0.5
バッテリー	単3電池 4本	
フィルム内径寸法	116×138mm	220×220mm
被写体有効撮影面積	61.5×91mm	141×163.3mm
本体寸法(W×D×H)・質量	180×81.9×120.900g	220×455×220・1200g

"ポラロイド"は、アメリカ合衆国マサチューセッツ州ケンブリッジ市所在のポラロイドコーポレーションの商標です。



▲IC-200A

●トランスイルミネーターは、短波・中波・長波長と各種取り揃えております。

株式会社・トミー精工

本社 東京 東京都練馬区旭町2-2-12 〒179
TEL (03) 3976-3111 FAX (03) 3930-7010
札幌 TEL (011) 728-1311 FAX (011) 727-5121
仙台 TEL (022) 273-5033 FAX (022) 273-5559
つくば TEL (0298) 38-0811 FAX (0298) 38-0814
神奈川 TEL (0462) 48-5101 FAX (0462) 48-5105

大阪支店 大阪市淀川区西中島6-4-6 〒532
TEL (06) 305-3333 FAX (06) 305-3359
名古屋 TEL (052) 471-2157 FAX (052) 471-2130
福岡 TEL (092) 883-5275 FAX (092) 883-5276
U.S.A. TOMY TECH U.S.A., INC.
TEL (415) 424-0898 FAX (415) 424-0897

マウスのテラトーマ

森脇和郎／序　野口武彦　村松　喬／編集

—EC細胞による哺乳動物の実験発生学—

A5判・296頁
定価 3914 円
(本体 3800 円)

テラトーマの生物学的な知識，ＥＣ細胞の種類と成立，ＥＣ細胞を用いた初期胚の細胞生物学・分子生物学的研究，ＥＣ細胞のキメラ動物への応用などについて，研究の進展を紹介し，その理論と実験技術を解説．医学・生物学・薬学など発生学，遺伝学に関心を持つ方がたの絶好の参考書です．

哺乳動物の初期発生

妹尾左知丸　加藤淑裕　入谷　明
鈴木秋悦　舘　鄰／編集

—基礎理論と実験法—

B5判・480頁
定価 15450 円
(本体 15000 円)

初期発生の基礎理論をはじめに説明し，ついで初期胚を研究対象とする主要な実験研究法を解説してあります．生命現象研究へ大きな手がかりとなる本書は，医学・生物学・農学・薬学を専攻する研究者の必携の書です．

体細胞遺伝学

山根　績　岡田善雄　堀川正克　黒木登志夫／編集

A5判・720頁
定価 10094 円
(本体 9800 円)

ＨＶＪによる細胞融合法，薬物や放射線，化学物質を用いた細胞の突然変異による研究，あるいは遺伝子組換法を使った研究等体細胞遺伝学研究の最前線をまとめたモノグラフィー．医学・生物学・農学・薬学研究に絶好の参考書です．

理工学社　〒113東京都文京区本駒込5-9-10 振替東京1-34676 電話03(828)5211(代) 〈図書目録進呈〉

KANTO CHEMICALS　MERCK

トランスファー&ハイブリダイゼーション用試薬

メルクではサザン、ノーザントランスファーとハイブリダイゼーションに用いる試薬を調製し、濃縮タイプまたはReady-to-useタイプとして取り揃えました。

トランスファー用試薬

SSC溶液　pH7.0
20×濃縮液　900ml
オートクレーブ済
DNase、RNase及び
proteaseフリー

ハイブリダイゼーション用試薬

デンハールト溶液
50×濃縮液　10ml調製用
凍結乾燥品

なお、上記以外の関連製品及び詳細につきましては下記までお問い合せ下さい。

関東化学株式会社　試薬事業本部　103 東京都中央区日本橋本町3-2-8 03(3663)7631
541 大阪市中央区瓦町2丁目5番1号 06 (222)2796

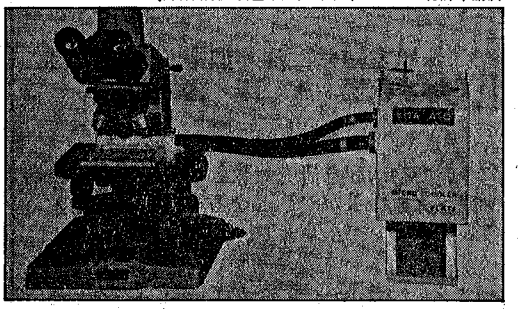
KITAZATO®

安定した至適温度での観察に!!

新発売 冷却タイプ

マイクロクーラー・プレート®

（顕微鏡用透明冷却板） 特許申請済



マイクロクーラー・プレートは、室温から−25℃(MC-100)の範囲で霜(曇り)を防止した状態で設定した温度に自動制御します。電子冷却方式の為液体窒素が不要で、更に60㎜シャーレーあるいはスライドガラスがセットできる広い透明冷却面となっています。

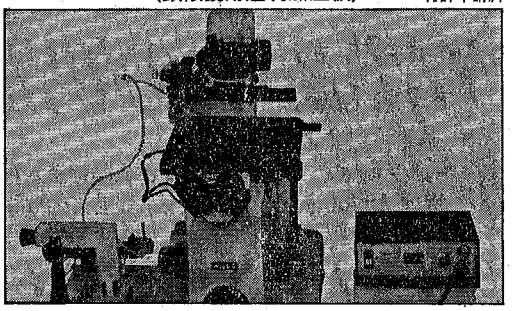
機種	設定温度	精度	標準価格
MC-10	室温から0℃	±0.5℃	58万円
MC-100	室温から−25℃	±1℃	128万円

●「冷却タイプ」「加温タイプ」のカタログのご請求は本社営業部へ。
●プレート形状、ガラス面への穴開け加工等御相談に応じます。

加温タイプ

マイクロウォーム・プレート®

（顕微鏡用透明加温板） 特許申請済



マイクロウォーム・プレートは、透明なガラス板の面全体が発熱体ですのでむらのない均一な表面温度を保ちます。(設定温度：室温〜50℃)精密定温下での培養状態観察に、又、細胞組織の電位測定等に活用されております。用途により多機種取り揃えております。

株式会社 北里サプライ

本社営業部 静岡県富士宮市三園平1429 〒418
TEL.(0544)27-8831 FAX.(0544)27-6060
東京出張所 TEL.(03)3903-7410

■ファイブロネクチンコート製品

コードNo.	規　格	培養面積	個/パック	個/外箱
25000FN	ディッシュ 35φ	9cm²	10	60
25010FN	ディッシュ 60φ	21cm²	10	40
25020FN	ディッシュ100φ	55cm²	10	40

○ウシ血漿由来ファイブロネクチン

■コラーゲンコート製品

コードNo.	規　格	培養面積	個/パック	個/外箱
25000COLI	ディッシュ 35φ	9cm²	10	200
25010COLI	ディッシュ 60φ	21cm²	10	200
25020COLI	ディッシュ100φ	55cm²	10	120
25810COLI	マイクロプレート6F	9.4cm²	1	20
25820COLI	マイクロプレート24F	2cm²	1	20
25860COLI	マイクロプレート96F	0.32cm²	1	20
25100COLI	フラスコ 25cm²	25cm²	10	60

○ブタ腱由来酸可溶化TypeIコラーゲン

■ゼラチンコート製品

コードNo.	規　格	培養面積	個/パック	個/外箱
25000GEL	ディッシュ 35φ	9cm²	10	200
25010GEL	ディッシュ 60φ	21cm²	10	200
25020GEL	ディッシュ100φ	55cm²	10	120
25810GEL	マイクロプレート6F	9.4cm²	1	20
25820GEL	マイクロプレート24F	2cm²	1	20
25860GEL	マイクロプレート96F	0.32cm²	1	20
* 25100GEL	フラスコ 25cm²	25cm²	10	60

○豚皮由来ゼラチン

ご使用に先立ちサンプルによる事前チェックをおすすめします。35㎜ディッシュにサンプルパックを用意しておりますのでご希望の方は本社又は下記支店へご連絡下さい。

岩城硝子株式会社
本社第3営業部 〒100 東京都千代田区丸の内3-2-3 ☎03(214)6221(直)
●大阪支店 ☎06(362)6291(代) ●名古屋支店 ☎052(211)3855(代)
●九州支店 ☎092(451)5606(代) ●広島支店 ☎082(248)0293(代)
●札幌営業所 ☎011(221)3477(代)